

「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里第一小学校】

平成31年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

（1）教科に関する調査 【下記（ア）と（イ）を一体的問う】

- （ア）身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- （イ）知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

* 出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

（2）児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

* 調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/19chousa/19chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

（1）教科の正答率について（※ 全国公立小学校の平均正答率（以下全国平均）との比較）

国語	学習指導要領に示されている3領域1事項（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕）に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

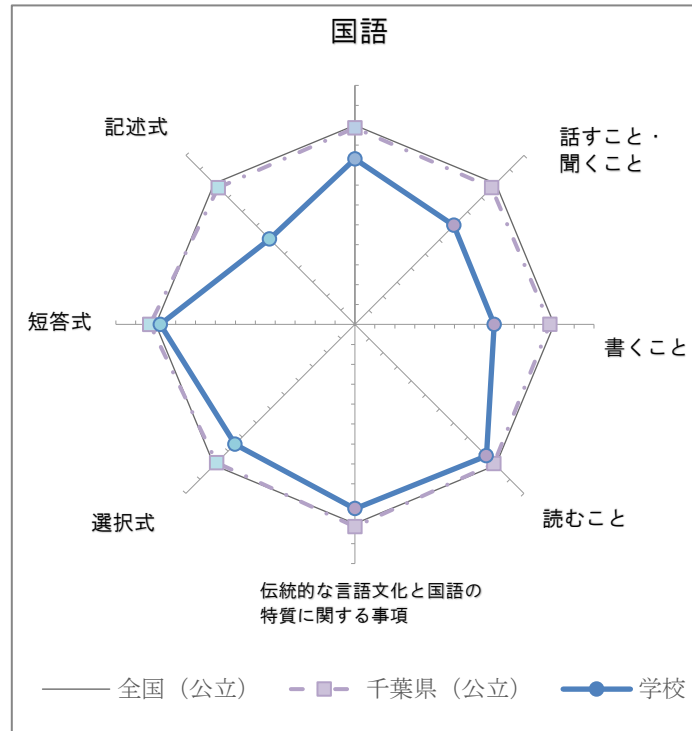
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



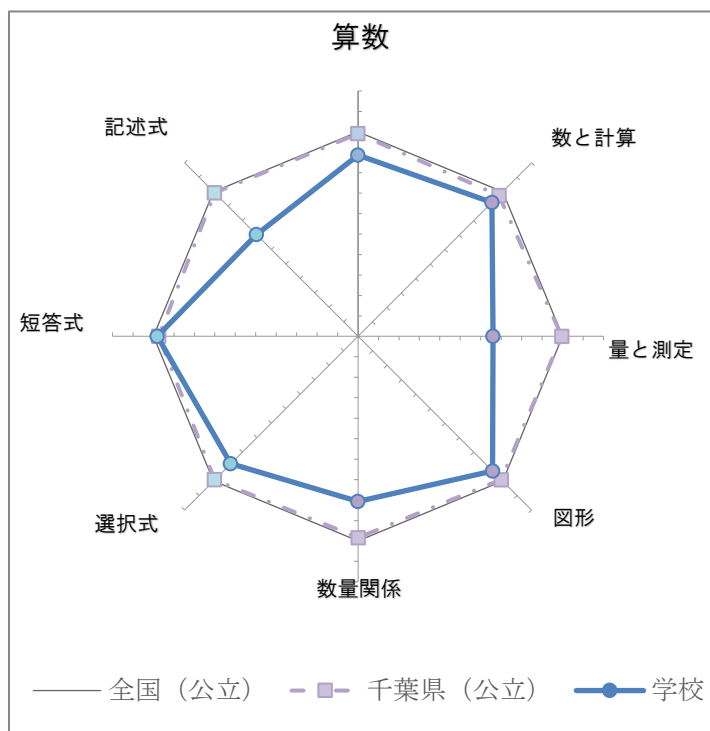
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「読むこと」の領域は、全国平均とほぼ同じ正答率でしたが「話すこと、書くこと」の正答率が下がっています。
- 「記述式」の形式において正答率が大きく下がっています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて文書に表現することに課題があります。
- 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の考えをまとめて言葉に表すことに課題があります。
- 文の中で漢字を正しく使うことについて課題があります。

【改善方策等】

- 「書くこと」については、課題に対して筋道を立て論理的に考える活動、自分の考えを順序立てて文章構成する活動、そして自分の考えを適切な言葉を使って表現する活動などを、様々な教科、場面において積極的に取り入れることで、文章表現力の向上を図ってまいります。
- 「話すこと・聞くこと」については、目的に応じて話し合ったり、話し手の意図を理解したりする指導を継続させてまいります。
- 漢字の読み書きについては、繰り返し練習して身に付ける必要があります。基礎的な問題を繰り返し解くドリル学習を、さらに充実させてまいります。また、小テストを実施したり、『とみの国』検定の合格を目標にしたりして、児童の意欲を継続させていくように努めてまいります。

算 数



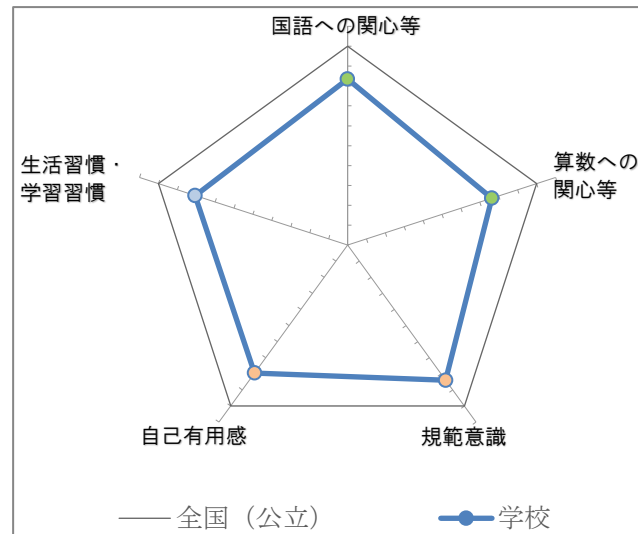
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率が下回っています。
- 「記述式」の形式において正答率が大きく下回っています。
- 「量と測定」の領域において正答率が大きく下回っています。
- 問題を正しく解釈し、求め方の説明を言葉や図を用いて記述する問題において課題がありました。
- 資料の特徴や傾向を読み取り、それらを関連付けて量を判断し、判断した理由を言葉や数を用いて記述することに課題がありました。
- 計算の仕方を解釈し、除法に関して成り立つ性質を表現したり、除法の式の意味を理解したりすることに課題がありました。

【改善方策等】

- 記述の問題全般に課題がありました。日頃の授業において、どのような筋道で解いたのかを文章で表現したり、それらを互いに検討したりする活動を充実させる必要があります。
- 問われていることが何かを適切に判断するためには、問題文を読む力が求められます。国語科の学習と併せて、文章を読んで要点を正しく読み取る指導を心がけてまいります。
- グラフや他の資料の読み取りについて、社会科の学習と併せて読み取る力、活用する力の指導の充実を図ります。また、資料から読み取ったことを文章に表したり、説明したりする活動の充実を図り、算数的な表現力の向上を図ります。
- 計算の技能の向上に加え、計算の意味を考えたり、数量に着目し計算に関して成り立つ性質を見出したりする活動を、今後授業の中に積極的に取り入れていきます。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 「学校に行くのは楽しいですか」「学校で学習したことが社会で役立つと思いますか」という問いに対して、「あてはまる」と回答した児童の割合が全国平均と同様の結果となりました。学校で学習することの必要性を理解しつつ、明るく充実した学校生活を送れていることがわかりました。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「学校のきまりを守っていますか」という問いに対して、90%以上の児童が「あてはまる」と回答しました。児童の規範意識が向上してきました。
- 「朝食を毎日食べていますか」「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」という回答に対して、「あてはまる」と回答している児童が全国平均と同様に、90%を上回っていました。規則正しい生活習慣が身に付いてきています。
- 「自分にはよいところがありますか」という問いに対して「あてはまる」と回答した児童が全国平均よりも下回っておりました。今後も児童一人一人のよさを認め、励まし、児童の自己肯定感や自己有用感が高められるよう働きかけをしていきます。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められています。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、「思考力・表現力」の向上に努めてまいります。さらに、目的に応じて話し合ったり、文章を書いたりする活動も充実するよう、指導方法の工夫・改善に努めてまいります。そして、学習内容の定着を図るために、家庭学習の工夫・改善を図っていきます。

規則正しい生活習慣が身に付くと、精神的にも安定し、学習面でも成果が表れるという傾向があります。学校でも生活習慣の改善を図るための指導を行ってまいります。ご家庭でも『早寝、早起き、朝ご飯』の励行とともに、お子様の生活を見直し、ご協力いただければ幸いです。

児童の学力向上や適切な生活習慣の確立は、学校と家庭とが協力し合うことで達成できます。今後も保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。